

平成 28 年 7 月 八 戸 市 教 育 委 員 会 定 例 会 議 録

開催日時 平成 28 年 7 月 22 日 (金) 午後 1 時 30 分

場 所 市庁本館 3 階 議会第 1 委員会室

教育委員職氏名	教育委員長	大 庭	文 武
	教育委員長職務代行者	武 輪	節 子
	教育委員	築 瀬	眞知雄
	教育委員	油 川	育 子
	教育長	伊 藤	博 章

事務局員職氏名	教育部長	佐 藤	浩 志
	教育部次長兼教育総務課長	野 田	祐 子
	教育部次長	齋 藤	信 哉
	図書館長	藤 田	俊 雄
	学校教育課長	小笠原	徹
	教育指導課	木 村	一 夫
	社会教育課長	田 中	勉
	是川縄文館副館長	清 川	定 吉
	総合教育センター所長	原	寿
	博物館館長	古 里	淳
	教育総務課参事	玉 井	由 朗
	是川縄文館参事	宇 部	則 保
	是川縄文館参事	村 木	淳
	西地区給食センター所長	川 口	晃 司

開 会

(大庭委員長)

定刻となりましたので、平成 28 年 7 月教育委員会定例会を開会します。

本日の議事録署名は、築瀬委員さんを指定します。

それでは教育長から、主な会議・行事等について、説明をお願いします。

主な会議・行事等

(伊藤教育長 資料に基づき説明)

(大庭委員長)

ただいまの報告につきまして、ご質問などありましたらお願いします。

[質疑なし]

(大庭委員長)

これより議事に入ります。本日提出されております議案を審議します。

はじめに、議案第 50 号「平成 29 年度使用小・中学校特別支援学級用教科用図書の採択について」事務局から説明をお願いします。

議案第 50 号 平成 29 年度使用小・中学校特別支援学級用教科用図書の採択について

(木村教育指導課長 資料に基づき説明)

(大庭委員長)

ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問などがありましたらお願いします。

[質疑なし]

(大庭委員長)

それでは、議案第 50 号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

[異議なし]

(大庭委員長)

ご異議がありませんので、議案第 50 号を原案のとおり決定します。

次に、報告事項に参ります。初めに「平成 28 年度第 1 四半期の業務報告について」は、事前に資料が配付されておりますので、委員の皆さんから質問がありましたらお願いいたします。

【平成 28 年度第 1 四半期の業務報告について (質疑応答)】

(築瀬委員)

いつも取り上げているのですが、7 ページのマイブック推進事業についてです。いつも取り上げている

ということは大いに期待しているということはあるのですが、これまで事務局からさまざま改善の手立てなど出されてきました。最後のところにクーポンの正しい使い方については書店側の意見で、周知が必要ではないかということが書かれています。もう少し具体的にいうと、どういった周知が必要だということなのか、少しお聞きしたいのです。

(教育指導課：佐々木主任指導主事)

マイブックを担当しております、教育指導課の佐々木です。よろしくお願いいたします。

このクーポンの正しい使い方について周知が必要ではないかということにつきましては、毎年話題になっております、「おつりが出ません」ということについての説明をもう少ししていただければということです。書店によって、あるいは保護者によってもその辺のとらえ方がなかなかうまく浸透しているところもあれば、浸透していないところもあるので、こういった意見が出ましたので、ここに書かせていただきました。

(築瀬委員)

わかりました。そうすればそのようなところについては、これから学校が始まったら来年度に向けて少し太字で書いたり、強調したりして周知していけばいいなと思って今聞いていました。私は今回出されたガイドブックの中でバーコードや、雑誌の見分け方等、そういったところに書店側で周知をもう少ししてほしいと言ったのかと思ったのですが、おつりのことが主なものだったのですね。わかりました。まず、このことは幼児への拡大ということも含めて、本のまち構想ということで、ブックセンターの構想と絡めて大きく新聞でも取り上げられています。市民の皆さんもたくさん興味のあるところだと思いますので、これからもよろしくお願いいたしますと思っています。

あと1つは先ほど出された広報はちのへの8月号には、きちんと8月31日までに使いましょうというところがありましたので、よかったと思っています。ありがとうございました。

もう1つ同じように8ページの15番、学校図書館支援事業も今年度の新しい事業で、新聞でも大きく取り上げられていました。図書館での研修の様子も取り上げられていまして、注目されているところがあります。他市町村からも注目されているということを聞いていました。最後の点にいろいろな派遣校の感想、学校図書館の担当者からの感想がここに2つ上がっています。もう少し具体的にというのですかね。うまく連携し始めているとか、無理だと思っていたことと書いてあるのですが、図書館司書さんが派遣されたので、無理だと思っていたこういうことができるようになった、ということの内容を把握していたら、もう少し具体的に教えてほしいと思っていました。

(教育指導課：佐々木主任指導主事)

まず自分一人では無理だと思っていたこと、学校によってそれぞれ実情が異なりますので、ここには細かく上げませんでした。例えば図書の分類の仕方、それから使いやすい並べ方、それから廃棄をした方がいいのか、登録までの手続きのことであるとか、本当に多種多様にわたる学校司書教育等の仕事の中で無理だと思っていたことがさまざまあったのだけれども、学校司書が入ったことによってそこが非常にうまくいっているということでこのような書き方になりました。

例えば背ラベルを貼るにしても、背ラベルをただ貼っただけではなくて、シリーズでちゃんとまとめる

と子どもたちが使いやすくなるとか、本棚の前に本を出して並べると子どもたちから見やすくて、図書室が明るくなるなど。あとはできるだけきっちり詰めるのではなくて、本の表紙を見せながらの展示をしたほうが、子どもたちにとっては非常に使いやすいなど、さまざまなことを学校司書がその図書室を見ながら作業しているものですから、学校の先生がこうやりたいと思って心の中に溜めていたものが、司書が入ることによって少しずつ改善されているというところ。先日各学校を回ってきたのですけれども、そういった声も上がってきています。

(築瀬委員)

ありがとうございました。とても良かったと思って今聞いていました。そういった良かったことは学校図書館の協議会とか、そういったところで成果として皆さんにお知らせすれば、ちょっとした工夫でできるということがあると思うので、是非皆さんにも広めてほしいと思って聞いていました。総合教育センターのところにもあるのですが、学校図書館ネットワークの事業も八戸が先進的に取り組み始めた地域でもありますし、学校図書館に関しても各種研究大会の発表も高い評価を受けています。こういったことも十分生かして、この学校図書館支援事業についても期待感が大きいと思いますので、是非来年度以降拡大の方向に向けて成果をためていただきたいと思います。ありがとうございます。以上です。

(武輪委員)

私も築瀬委員と同じく、今の学校図書館のことについて質問いたします。8ページの教育指導課の学校図書館支援事業。そして15ページのセンターの学校図書館ネットワーク事業、さらには20ページの図書館の学校司書に対する研修。この横のつながりですね。連携されて行われているというところを私も大変いいと思いましたし、学校図書館担当者からの感想というものも大変うれしかったです。この学校図書館担当者というものは、いわゆる学校の先生ということでよろしいわけですね。先生方にも大変役立っているということで、私自身もとてもうれしかったです。今拡大ということもありましたが、私も今はごく一部の学校にだけしか司書の方が入っていないわけなので、これからどんどん市内の小中学校に広まってほしいということで、学校司書ももっと人数が必要になっていくのではないかと考えております。やはり学校司書の育成というか、学校司書の担い手の育成のことも今後、この4月に始まったばかりですので、今の3名の方々の活動をこれから見ていかなければいけないのですが、これから先のことで司書の育成という方向で何かお考えがございますか。

もう1点は司書の3名の方々の声です。今の教育指導課、総合教育センター、図書館のところを見ますと、月1回ごとに研修がなされているように思われます。次の事業の予定のところに8月、9月にも研修会というものが予定に入っていました。月1回ペースでこの3名の方々の研修が行われているのですけれども、その司書の方々3名の声も少しお聞かせいただければ、例えばもっとたくさん研修をしてほしいという声が上がっていますとか、学校に行っただうだという司書の方々の声を少しお聞かせいただければと思っております。

(木村教育指導課長)

まず今後の展望につきましては私から、学校司書の生の声については担当から説明いたします。

今年度はまず3名、名前は付けませんがモデル事業のような形で始めました。以前学校図書館協力員、それから支援員を経験した方の中から声を掛けて選びました。以前は人を増やすという意味で学校に派遣していただけですけれども、今年度はやはりさつき委員から話があったとおり、計画的な研修をさらに積んでもらって、仕事の質を高めるほうでも進めております。成果と課題を明らかにし、おそらくほかの学校からもこれから要望は上がってくると思いますので、予算獲得の上でも成果を明らかにして、増やす方向でもっていきたいと考えております。

(教育指導課：佐々木主任指導主事)

今回学校司書を担当している3人なのですけれども、以前学校図書館支援担当員ということで、学校の図書館に入っておりました。そこから7年経って、今回改めて入ったという形になります。非常に象徴的な言葉がありまして、「図書室は手が入らないと雑木林ですね。荒れますね。」という一言が非常に印象的でした。別に学校の図書室が荒れているとか、汚れているとかそういうことではなくて、使いやすくするためにはやはり人の手を入れなければ、里山のようにしていかなければならない、という声がまず4月の初めの辺り、5月の初めの辺りにありました。それ以降は月に1回研修をしております。

研修は選書の仕方であるとか、本の並べ方等、一応題は付けているのですが、それぞれ3人の情報交換も重視しております。このようなやり方をやったらこのようになった、ではうちの学校でもやってみようとか、今こういうところを悩んでいるのだけれどもと誰か1人が言うと、ではそこに私たち2人で行きましようとか、そういったことを通してそれぞれお互いのスキルを高めていくという形での研修です。でも本当に専門的なところについては、私自身の勉強も追いつかないところがあるので、そこは市立図書館の司書の方に大変助けていただいております。今月末に行われる研修では「図書の修理について」、セロテープを使ってはいけないなどさまざまありますので、そういった専門的なところを研修しようと思っております。

学校司書は本当に各学校の実情に合わせて仕事をしておりますので、生の声といいますか、一番多いのは図書ボランティアとの連携が非常にうまくいっている、そしてボランティアは自分たちがやりたいと思っているのだけれども、専門的なところの見方がわからないから、司書がいるおかげで何をやればいいのかははっきりしたのでとても助かると言われて、逆に司書のやる気につながっているというところがあります。

なおボランティアもコーディネーターもない学校については、やはり学校の先生方が非常に協力的なので、そこについては先生方の助けを借りながら、備品等もそろえてほしいということ、学校でそんなにお金が掛からないものはすぐに揃えてくれて非常に助かるということです。学校でも助かると言われておりますし、司書の方も学校に少しお願いをすると、割とそれがすぐ解決されるというようなところがあって、今のところ非常に活動しやすいということでした。

まず司書の養成に関しては、今の3人がまず各々のスキルを上げてもらって、あとは携わっているボランティアたちにも非常に意識の高い方たちもいらっしゃるの、そういった方たちも今後何かの形でさらに活躍の場を広げていければと思います。以上です。

(武輪委員)

今のように司書の方とボランティアとお互いが相乗効果で、それぞれの学校図書館が運営されることを今後ますます祈っております。

(大庭委員長)

生の声でいい言葉を聞きました。手を掛けないと、結局図書館も雑木林になっていくのだと。その雑木林が変わっていくことによって、おそらく学校内の先生方も、子どもたちも気付いてくれるでしょうから。そういう効果が1つ出ているのかということ聞いておりました。

そのほかありますか。

(油川委員)

私からは3点ほど申し上げたいと思います。まず1点は11ページの幼稚園家庭教育学級事業につきまして、八戸市内の21の私立幼稚園は委託を受けまして、そして順次開催しているところです。どの園も情操教育につながられるような内容ということで、大変ありがたく思っております。ご報告とお礼を申し上げたいともいます。

2点目は16ページの9番の特別支援教育推進事業の項目の2つ目のところです。健康づくり推進課の事業とありますけれども、こども支援センターと健康部健康づくり推進課との連携が今年度強化されたために、支援を受ける側は大変助けられていますし、そして励まされています。前回もお礼を申し上げたのですけれども、この連携強化ということに関しましてもお礼を申し上げたいと思います。いつもありがとうございます。

3点目は18ページの子どもの読書週間行事についてです。昨年度定例会でも少し申し上げましたけれども、三条中学校の3年生の生徒が家庭科の授業の一環で、当園の子どもたちに手作り絵本をプレゼントしてくださいました。この内容は道徳的な要素が含まれたものがとても多くて、素晴らしい内容でした。こういう絵本を中学生が書くことができるのだ、つくることのできるのだということで大変感銘を受けました。私どもだけ見ているのはとてももったいないと思いましたので、例えばこういう子どもの読書週間の期間内に、中学生がつくった絵本なども展示することができたら、本のまち八戸構想につながるのかと思いましたので、来年度以降少し、もし可能でしたらお考えいただければと思います。以上です。

(大庭委員長)

私から2点ほど。1点目は9ページです。9ページのスクールカウンセラー配置事業のところに関して、問題行動とか、不登校などに対応してくれる方が入るということは、先生方の多忙感解消にもつながるのかということで、大事な事業の1つとして考えております。たしか昨年は12名で、今年は1名増えたと認識しております。質問の中身は、まずこのカウンセラーの方々の活動に対する小学校、中学校の先生方の反応、評価といえは少し強いのですけれども、どういう反応をお持ちなのかということ。人員について現在13名ということで、やはりまだまだ増やしたいなという状況なのか、その2点のことについてお聞きしたいのです。

(教育指導課：沼館主任指導主事)

スクールカウンセラー担当の教育指導課の沼館と申します。学校ではやはり子どもの悩みのほかに、保護者の悩み、場合によっては学校の先生方の悩みが大変多く出ているというような状況であります。そこでスクールカウンセラーの事業を活用している学校、大変多く希望しております。学校の反応としましては、やはりスクールカウンセラーがいることで保護者の悩みに対応するという事で、非常に助かっているという声が多く聞かれております。昨年度まで配置していなかった学校では、スクールカウンセラーがいるおかげで、今まで学校で対応できなかったところをスクールカウンセラーが対応することによって解決の糸口が見つかったというような声がたくさん聞かれております。今、学校を訪問しているわけですが、訪問先でもスクールカウンセラーによって大分、子どもや保護者が救われているという声が聞かれております。

2つ目の質問ですけれども、やはり希望している学校は非常に多いため、県にはどんどん要望しているという状況でございます。以上でございます。

(齋藤教育部次長)

少し補足させてください。今担当から相談事業についてお話しました。このスクールカウンセラー事業というものはそもそも県の事業です。それから心の教室相談員というものは市の事業ということで、目的は若干異なります。目的というよりも対象が異なるのですけれども、やはり実際に相談をする立場から見れば、なかなかその部分がうまく伝わっていないのではないかとということで、少し来年度にかけてこの相談体制のところを整備しようと考えていました。今、国ではこのほかにスクールソーシャルワーカーというものも重要性が示されていまして、そういった部分を含めながら検討を進めているところであります。具体的にはまだお話できませんけれども、現在そのような形で進めているというところだけお知らせしたいと思います。

(大庭委員長)

確かに国の事業といいますか、方向性としてスクールソーシャルワーカーのところにも力を入れていくということも出ていますので、そのような方法も取り入れて検討していただければと思います。先ほどの回答の中でやはり保護者、それから先生方の相談にのっていただいているというところもいいのかと思って聞いておりました。県の要望等も含めて、何とか現場が動きやすいといいますか、そのような形で支援していただければと思います。

2点目ですけれども、15 ページです。総合教育センターの教育の情報化推進事業の下から4つ目のところ。電子黒板を投入した小学校3校、中学校2校ということについてです。1つはこの導入した電子黒板の実際の活用状況、どのように使われているのか。そしてまだ導入したばかりですので、その効果まではいかないかもしれませんが、どのようなところが見て取れるのか。その辺をお聞かせください。

(原総合教育センター所長)

電子黒板についてお答え申します。大庭委員長からお話あったように、まだ導入して間もないということもございまして、今まではコンピューターからプロジェクターへ大きく映すなどしてやっ

した。電子黒板の場合はその画面の中でいろいろな操作が瞬時にできるということで、子どもたちも非常に関心を高めたり、例えば図形などを展開するようなものをその場で教示できるとか、そのようなところで活用を進めていただいているところです。まだ導入して間もないということから、これから成果と課題、効果という部分については検証してまいりたいと思っているところでもあります。以上です。

(大庭委員長)

これからどのように活用されていくのか、そこも含めて効果等で見えるところがあったらお知らせいただければと思います。

ほかにありませんか。

(武輪委員)

3点質問と、それから感想等も含めて聞きたいことがあります。1点目は15ページの研修講座のところ です。4つ目のところに市民公開講座というものがありますが、この中にある6月16日に行われた「インターネット依存症から子どもを救う」という講座もこちらに含まれているのではないかと思います。各小中学校の保護者等にこちらの啓発活動といいますか、こういうものがあるというお知らせをしたかどうか、そして市民の方々がこの講座にどれくらい来てくださったかということをお聞きしたいと思っていました。今年5月の中教研の講演会は八戸市の警察署の方の講演でしたが、ネットトラブルについてということで、大変詳しく現在の状況からさまざまなこととお話いただきました。そのときに、先生方や私たち教育委員だけでなく、保護者の方に聞いてほしいととても思いました。あとは医師会でもこのネットに対する依存症等の講座をしていたり、具体的にネットについての講演・講座をやっているのですけれども、なかなか保護者の方へ足を運んでもらえていないのではないかとこの状況があります。今回の6月16日のことをお聞きしたいと思っておりました。

(原総合教育センター所長)

市民公開講座についてお答え申し上げます。いま武輪委員からお話ありましたこの講座でございますが、講座の周知につきましては小中の校長会、それからPTAの事務局等、あとは学校にはもちろんですが、案内文やチラシ等で周知を図ったところでもあります。その結果当日はPTA代表の方、それから幼稚園、保育園の方も少なくなかったです。それから養護教諭であるとか、管理職の方々合わせて、あのセンターの大研修室がほぼ埋まる程度ですから、70名から80名だったと思いますけれども、参加していただきました。

内容については久里浜医療センターというところで、日本で唯一インターネット依存症の外来、それから入院等でやっているという院長先生からのお話でした。まずその依存症になる原因や、依存症の状況ということについて非常に詳しく、個人情報に抵触しない程度のところの事例等を詳しくお話いただきました。さらには依存症にならないためにどのような方法があるかということ、特に認知行動療法という方法を使って家庭でできるということを具体的にお話いただきまして、参加していただいた方々からも「危険性を感じることができたし、家庭でこういうところをやっていきたい」という、昨年度校長会で出したインターネットのリーフレットのことにも関連して、そういう声が聞かれたところでもあります。以上であります。

(武輪委員)

このネットに関しては継続して子どもたちを守るためにも、また講座なり講演なりを開いていただいて、多くの保護者に現状を知っていただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

(齋藤教育部次長)

少し補足です。

今、総合教育センター所長からあったように、我々としても保護者の意識啓発というものはすごく大きな課題であると考えていました。昨年の暮れにPTA連合と小中校長会、そして教育委員会の4団体によってつくったインターネットトラブルのリーフレットの検証をしているところですが、保護者の方々一人一人に伝わったのではないかと感じていました。その結果、医師会とかPTA連合、小中学校生徒指導、中学校生徒指導の中でそれぞれ研修会を開催しており、全てではないのですが、保護者の方々もそれに参加するような姿も見られるようになってきたという部分では、大変いい傾向だと思っていました。

リーフレットの第2弾を夏休み明けに発刊する予定で今準備を進めています。この夏休みに中学校の生徒会の役員の代表者が全員集まって、昨年度に新聞でも紹介されましたが、子どもたちが考えた「思いやり提言」、そういった部分を具体的に話し合います。また小学校では同じ時期に開催される「いじめ対話集会」で、このネットトラブルの部分を少しテーマとしても取り上げながら話し合う。そういったところをリーフレットにまた盛り込めればいいということで考えておりました。これは継続して子どもたち、そして保護者の意識啓発といった部分をやっていきたいと思っていました。以上です。

(大庭委員長)

そうすると例のリーフレットについては改訂版といいますか、第2弾ということでまた対応している。あるいは以前にもお話したのですが、高校生になると保護者との話し合いもないままで携帯電話を持ってそれが常習化してしまっている。ですからその前の段階で、やはり保護者との話し合い、ルールづくりということが本当に大事だと思ったのです。リーフレットなどを出していただいて、小学校、中学校の段階で保護者も含めて意識づくりをしていく、意識付けをするということは大事なことかと思っておりますので、継続していただければと思います。

それから、特にここ数日のところで「ポケモンGO」についてです。おそらく、これからいろんな問題が出てくると思います。将来若い人たちは特にスマホ等の有効な機器の活用は必要になってくると思います。今の段階ではまだ何も言えませんが、非常に心配する要素があると私は感じております。この辺もまた、小学校、中学校も含めて対応していかなければならないのか。本当はもっと別なところで、やはり作品をつくる前の段階で、そのような配慮が必要なのだろうと感じています。これもまた今後、1つの対応策が必要になってくることなのかと危惧しておりました。すみません、少し脱線しました。それでは次お願いします。

(武輪委員)

2点目ですが、19ページの図書館の4番、分室運営連絡会議というところについてお聞きしたいと思います。内容が分室の運営状況等についてということでしたが、こちらの運営状況というものは具体的にもう少しお聞きしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(藤田図書館長)

図書館の分室というものは市内に6箇所ございます。基本的には図書館から離れた地域にお住まいの方の利便性を図るということで、場所が市内各公民館の6分室になります。基本的には地域住民の要望によって運営は住民ボランティアの方で、50人ほど登録しております。その方たちが週2回ほど午後の時間、公民館の分室に出て本の貸出等を行っているところです。

それで昨年度は貸出人数が6,189人、それから貸出冊数が16,587冊、蔵書冊数は41,570冊となっております。毎年図書館から1館あたり30万円ほどの図書購入費を出しております。容量が決まっておりますので、傷んだ本とか、古くなった本については本館で引き取って、除籍の手続きをしているところです。以上です。

(武輪委員)

ありがとうございます。八戸市図書館や南郷図書館、図書情報センターから遠い地域の人にとってはこの分室が大変ありがたい場所であって、ブッククーポンで子どもたちも好きな本を買ったりできますが、この分室も非常に子どもたちにとって大きな存在です。例えば本を借りに行かなくても、具体的に言うところ私の地域で鮫公民館に学校の帰りに寄って、そこで宿題をしながら周りの本を眺めながらという子どもたちも今までよく見ておりました。この分室に対しても、これからもっと手厚くして、図書館に足を運ぶなくても、分室をもっと活性化してほしいという気持ちがありましたので、運営状況をお聞きしました。

利用状況などは何年か前に比べて変わらず、地域の方、子どもたちも足を運んでいるのでしょうか。

(藤田図書館長)

確かに今はインターネットの普及等で図書離れということがよく言われておりますけれども、実は図書館の本館自体も蔵書、貸出冊数が伸びているのです。市内の人口が減っているところから見ると実は徐々に微増しており、やはり本のまち八戸構想のブックスタート、ブッククーポンが大変大きい影響を与えていると思っております。

分室等についても、30万円という金額ではあるのですが、そういう図書の入れ替えなどをやっておりますので、いくらでも利用していただければと思っております。

(武輪委員)

ありがとうございます。ちなみに地域のボランティアに支えられてということですので、地域の方々と一緒に分室も盛り上げていただければと思います。

最後ですが、5ページの手作り弁当について。こちらは私の感想を少し述べさせていただきたいと思っております。今回この手作り弁当ということで、5ページ全体にわたってその実施日と状況、それから小

学校、中学校と合わせて、それぞれの活動内容も具体的に明記されていて、それを読んで大変うれしいと思っておりました。数値からすると持参しなかったということが若干多かったと。これに対してこの※印で、修学旅行や調理実習で持参しなかった児童生徒を含むとありましたので、持参しなかった人が若干多かったのかとも思っております。

この手作り弁当を通してさまざまな活動、取り組みが行われている様子が非常によくわかりました。食育ということから、感謝すること等、いろいろなことがうまく学べるような感じを読んで思いました。児童生徒との深まりも、この手作り弁当によって深まっているのではないかと感じました。学校側からの熱心な呼び掛けでありますとか、発信も大きな役割をしているのではないかと思います。学校側の先生方にも大変感謝したいと思っております。子どもたちが小中学校にいるときには給食というものが当たり前ですけれども、中学校を卒業していざ高校に送り出すとき、弁当を毎日つくらなければいけなくなったときに、学校給食のありがたみがわかります。実際子どもが小中学校にいるときは、給食がなくて弁当をつくらなければいけないというときに、何で給食がなくて弁当をつくらなければいけないの、大変だという思いがあるのですが、いざ高校に行くと学校給食はありがたかった、子どもたちは毎日おいしい給食を食べていたのだと思います。この手作り弁当を通して、カレーの日を含めると年3回になりますが、保護者もこの学校給食のありがたみをわかる日であって、子ども、学校等含めて食育を通して、手作り弁当の日は年数にすると14年くらいになるかと思うのですけれども、マンネリ化せずこういう取り組みが継続して行われているということを大変感謝したいと思って感想を述べさせていただきました。ありがとうございます。

(大庭委員長)

それではこの業務報告につきましては、以上でよろしいでしょうか。

続きまして、「平成28年度第2四半期の主な事業予定について」委員の皆さんからご質問がありましたらお願いします。

【平成28年度第2四半期の主な事業予定について（質疑応答）】

(油川委員)

私からは3点ほどです。まず4ページの幼保小連携推進事業についてです。今年は8月12日に予定されているようですけれども、去年は8月5日に「気になる子どもの支援と幼保小の連携」というタイトルで、今年度と同じ渡辺徹先生をお呼びして開催されました。その内容だったのですが、一番印象的だったのはその渡辺先生のお言葉です。「子どもの言うことをよく聞くのです。今その子が言っていることも、まさに言わんとしていることも、まだまだ全然言えていないことも全てを聞くようにするのです。子どもはその子なりにベストを尽くしているのだと思うことです。」というお話をなさいました。先ほど教育長からのお話にありましたように、いい講師は継続してお出でいただくことがいいというお話をなさいました。やはりこの渡辺先生も前年度とてもいいお話をしてくださいましたので、今年度もまた期待をしているところです。

この事業の年間のまとめとして小学校側からは報告書を、そして幼稚園や保育園側からは成果と課題について、アンケート形式になっているものを教育委員会へ提出することになっています。小学校側は45

校全部の小学校が報告書を提出しているのに対して、幼稚園は23園中18園より回答を得ていて、回答率が78.2パーセント。それに対して保育園は73園中の30園より回答を得ていて、41.1パーセントという回答率になっています。幼稚園、保育園ともに回答率を上げることが連携を深めるということにもつながると思いますので、私からも幼稚園、保育園に対してはアンケート提出についてはお願いをしますが、担当課の方々からも少しそのところを全部の園より提出をお願いしますなどと呼び掛けていただけたらいいのかと思いました。

2点目は7ページの防災ノートの活用事業についてです。学校訪問の際に木村課長や原所長から防災ノートを活用した早めの指導をお願いしますというようにして、学校に呼び掛けているようなのですが、早めの指導というものが実際にされているかどうかということをお聞きしたいと思います。

(木村 教育指導課長)

わかる範囲ですが、1学期中に訪問した小学校の中では2校ほど、計画訪問の中でやっているところもあります。あとはおそらく4月の内に学級活動または学年集会でやっているとは思いますが、詳しい数値は把握しておりません。またわかりましたら連絡いたします。

(油川委員)

おっしゃるように、早めの指導というものが大切かと思しますので、よろしく願いいたします。

最後3点目です。16ページのかっぱ展につきまして、先週の土曜日に私もおじゃまをさせていただきました、ありがとうございました。私事で恐縮なのですが、私は吹上小学校でしたので、まさにこの看板が設置されている付近で遊んでいました。でもこの「メドツが出るぞ」というこの看板がとても怖くて、水路には近づきませんでした。このかっぱの看板、「メドツが出るぞ」のこの看板は地域の子どもたちを守っていたのだと思いました。それと同時に子どもころに記憶したものは、大人になっても生き続けているのだと思いました。私は小学校を卒業して45年くらい経つと思うのですが、今でもかっぱが出るのではないかと思います、そういうところには近づかないようにしています。とてもありがたい看板だったと思いますし、この看板を丁寧に保存してくださっていることに感謝申し上げます。

かっぱ展の内容だったのですが、幅広く伝説を紹介してくださったり、ミイラもあつたり、それから暗闇もあつたりなどしまして、内容がとても楽しくて、いろいろな年齢の人も興味を持つことができる内容になっていました。またなかなか知る機会の少ないかっぱについて展示会というものを開催していただきまして、ありがとうございました。以上です。

(大庭委員長)

それでは事業予定につきましては、以上でよろしいでしょうか。

続きまして、「八戸市立学校給食センター調理等業務委託業者について」事務局からの説明をお願いします。

【八戸市立学校給食センター調理等業務委託業者について】

(小笠原 学校教育課長 資料に基づき説明)

(大庭委員長)

ただいまの報告につきまして、ご質問などがありましたらお願いします。

[なし]

それでは次に、「平成 28 年度八戸市民大学講座（後期）について」事務局からの説明をお願いします。

【平成 28 年度八戸市民大学講座（後期）について】

(田中 社会教育課長 資料に基づき説明)

(大庭委員長)

ただいまの報告につきまして、ご質問などがありましたらお願いします。

[なし]

それでは次に、「八戸市公開講座開催促進事業について」事務局からの説明をお願いします。

【八戸市公開講座開催促進事業について】

(田中 社会教育課長 資料に基づき説明)

(大庭委員長)

ただいまの報告につきまして、ご質問などがありましたらお願いします。

[なし]

それでは次に、「「青少年のための科学の祭典 2016」八戸大会について」事務局からの説明をお願いします。

【「青少年のための科学の祭典 2016」八戸大会について】

(原 総合教育センター所長 資料に基づき説明)

(大庭委員長)

ただいまの報告につきまして、ご質問などがありましたらお願いします。

[なし]

それでは次に、「博物館特別展「かっぱ展」の開催について」及び「南郷歴史民俗資料館企画展「ちょっと昔のゲームたち展」の開催について」事務局からの説明をお願いします。

【博物館特別展「かっぱ展」の開催について】

【南郷歴史民俗資料館企画展「ちょっと昔のゲームたち展」の開催について】

(古里 博物館長 資料に基づき説明)

(大庭委員長)

ただいまの報告につきまして、ご質問などがありましたらお願いします。

(築瀬委員)

私もテープカット式のあとゆっくり見させていただきました。収集とか写真とか、昔話とか、よく努力されていたと感心しました。担当の方々、ご苦労さまだったと思いました。

それからお化け屋敷風の馬小屋ですか。子どもたちがキャーキャー騒いで、楽しんでいました。

今までにないような博物館としてはユニークな特別展で、先ほども話がありましたが、子どもから高齢者まで行って見て、楽しめると思っていました。

私事なのですが、まず地元の小学校で5回目になります夏休み学習会、読み聞かせなど、いろんなことをやっています。今年は私の担当のところがかっぱ特集で、南部昔コで「メドツの宝物」というものを取り上げて、音読学習をする予定にしています。偶然ですが、今日の森のおとぎ会で著者の榎谷さんが「メドツの宝物」を取り上げて、かっぱ展にちなんでお話ししたそうです。やはりさまざまところでこのことが話題になっていまして、とてもうれしいと思っています。今年の夏はかっぱで盛り上がるのかと期待しているところでした。

1つ私、かっぱ、メドツに関するお話がたくさん載っていたり、掲示もされているのですが、興味があったのは映像です。昔コを語る語りと風景です。映像が流れていまして、今回は2話だそうです。また1本つくる予定だということで楽しみにしていました。非常にこの語りが大げさではない南部弁の穏やかさというものがよく出ていて、非常に好感が持ててよかったと思っていました。また風景の様子なども非常に郷愁を誘うようなもので、手作り感があふれていてとてもよかったと思っていました。是非入館者が増えることを期待しながら、宣伝もしたいと思っていました。

少し気になったのは、ミニお化け屋敷風の馬小屋で子どもたちがすごく喜んでいるのですけれども、市外などからの見学者にどういう影響があるのかと思ったりして、その辺の節度の面で少し考えるところが必要かとも思いました。余分なことも言いましたが、そういうことも含めて盛り上がってほしいと思っています。

(武輪委員)

私もかっぱ展について最後に一言。ちょうどこちらの市役所に来る車の中で聞いたBeFMのラジオで、夏休みにかけて今映画館でもこのかっぱのアニメの映画を公開しているそうです。その映画にこのかっぱの手のミイラの話も出てきて、その主人公のかっぱが僕のお父さんの手だと言っているところがあるそうなので、その映画を見た子どもたちもさらにその手が展示されているこの博物館にどうぞという流れもつくっていくと、より来場者が増えるかと思いましたのでご検討ください。

(大庭委員長)

そのほか、事務局から報告案件はありますか。

[なし]

ないようですので、最後に委員の皆さんから何かありますか。

[なし]

閉 会

(大庭委員長)

それではこれもちまして平成28年7月の教育委員会定例会を閉会いたします。

(午後2時56分閉会)